

園長だより

子どもにとっての劇活動

日々の保育実践が、
子ども達のものになるには… ③

1月22日、2014年ぶりの関東地方の大
雪、園庭一面の雪化粧、昼過ぎから降り始め
夕方には本降り、園庭をじっくりと見渡す子
ども達、頭のなかは「何して遊ぼう」とあれ
これ遊びのプランをめぐらしています。

翌日、子ども達は雪あそびに没頭、数年ぶ
りに出逢う感触、初めての雪、それぞれが空
からの贈り物を遊びの中にとりこみ、楽しい
ひと時を過ご
しました。



マイクはつかわない

マイクの使用は子どもの表現を制約して
しまうと言われています。子どもの発想を
ストレートに出してあげることができず、
動作や動きのリズムに制限をかけてしま
います。特に5歳児では舞台の奥行きを
使えず、仮に固定されたマイクがあるとし
たら、常に台詞はマイクに向い発すること
となり役同士が向かい合うこともなく、不
自然な形をとってしまいます。保育室で行
えたことが舞台上上がるとできない姿も
みられます。

ごく自然な動きや子ども同士のやりとり
ができるようにマイクは使わず子どもの肉
声で劇が進められています。

保育者の悩み 大きな声で…

子ども達のごく自然なやりとりからは、大
人が考える程の大きな声は出ません。舞台練
習を行うようになり「大きな声で言ってごら
ん」とアドバイスをすることもあります、
子ども達は大きな声を意識するあまりに、動
きが止り、不自然な感じが子どもの姿から感
じとられることもあります。

題材により（その場面に応じて）元気よく言
えるものと日常会話のやりとりのトーンで言
うものがあります。「大きな声」と意識して伝
える前に、劇の取りみから、その場面にあう
台詞のやりとりを子ども達から感じとって
こうと心がけたいものです。

保育者の悩みは目の前にいる子ども達か
らヒントを得て解消されていくのですね。

発達の違いを再認識

劇の取り組みをみていると年齢ごとの発達
や子ども達のそれぞれの育ちを実感できます
10数年前、幼稚園で勤務していると時に、
「大きなかぶ」の劇を3歳、4歳、5歳が行う
場面をみる機会がありました。他園での実践
ですが本園での取り組みにもつながるものが
あります。

3歳の大きなかぶ

三歳児はまさに天真爛漫です。劇遊びの姿
をみても「ひとつにまとめよう」とは更々
思う事はありません。先生との信頼関係が背
景にあり、ひとり、ひとりが自分のやりたい
ことを表現していくようです。
あそびでは先生がかぶになり「先生がかぶだ

よ！みんなにぬかれないよ！」とはじまり、
おじいさんやおばあさん、いぬ…等、動物達
になりきった子ども達が順番にやってきます。
「先生とやるから楽しい」と、その思いが子
どもの活動の源になっています。

先生の優しさにつつまれ、安心感を得た子
どもは「〇〇ちゃんと一緒にやりたいな」「〇
〇くんとならできるよ」と仲間にも目を向け
一緒に活動できるようになっていきます。

3歳のこの時期は個人差も顕著にあり、「動
物になりきり満足の子」「かぶを引っ張るこ
とに楽しさを感じる子」「お友達と一緒にでき
る事がたのしい」等ひとり、ひとり楽しみの視
点は様々です。個々の姿をおさえながら、日々、
楽しみながらおこなうことで少しずつお話の
筋立てをわかっていく姿がみられました。

4歳の大きなかぶ こだわりの4さい

はじめはお話の一部分を楽しみ進めていま
した。かぶを引き抜くところ、役同士の伝え
合い等、印象に残った場面を先生や友達と楽
しんでいました。

劇遊びをしていく中で話の筋立てを理解し
てくると、子ども達のこだわりが出てきまし
た。台詞や動作などみんなで同じようにやろ
うとする姿が見られます。

お決まり事は、
「うんとこしょ、どっこいしょ、まだ、まだ、かぶは
めけません！」

子ども達をよくみるとかぶを引っ張る順番も
毎回、固定されているようにみえます。

「AくんのうしろはBくん、その後ろはCち
ゃん」というように暗黙の並び方があるよう

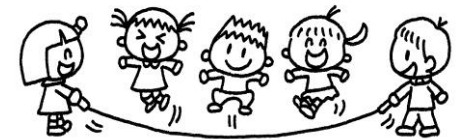
です。

4歳児は羞恥心もでてくる時期、初めての
事、苦手なことに尻込みをしたり、失敗した
ら「どうしよう」と結果を気にして消極的に
なったりする姿も見られる年頃です。しかし、
自信を持つと見違えるようになります。おお
きなかぶの中でみせた子どものこだわりも
「できることへの自信」と感じられます。

ひとり、ひとりが楽しみながら取り組んで
きたことが気がついたらみんなのものになっ
ていく、その根底には4月からの仲間とのか
かわりがあります。「よく遊び！より楽しく遊
ぶ！」

子ども達が園生活で積み上げてきたことが
生活の節々で発揮できるようになってきたこ
とを実感しました。

他園の事例ですが、異なる年齢が同じ題材
を選んだとしても子ども達の発達に即した内
容が作られていきます。



終わりに

毎回の様に読み手の苦労も考えず、便り
を出し続けています。時間を作り、読んでい
ただいてくれることに感謝しています。

インフルエンザが流行する中、保育園でも
欠席児が出ているのが現状です。思うように
劇の活動（劇遊び）ができず、先生もやき
もき、でも、やはり健康が第一です。元気にな
ったら、またみんなで楽しみましょう